



2019年10月30日

ラグビーワールドカップ 2019 日本大会における、ワールドラグビーとのパートナーシップ

ラグビーフットボールの国際統括組織であるワールドラグビーと日本アンチ・ドーピング機構（以下、「JADA」）は、ラグビーワールドカップ 2019 日本大会（2019年9月20日～11月2日開催）において、ドーピングのない、クリーンなスポーツへの協働として、以下の活動を実施しました。



- クリーンなアスリートの権利を守るため、ワールドラグビーと JADA は連携して、大会におけるドーピング検査を実施しています。

ワールドラグビー アンチ・ドーピング ジェネラルマネージャー Mike Earl コメント

「ワールドラグビーは、今ワールドカップでの連携の成功をととても嬉しく思います。この連携は積年にわたる JADA とのパートナーシップによるものです。我々の活動を通して、トーナメントに参加するチームそしてアスリートにフェアでクリーンなスポーツを楽しむ素晴らしい機会を確保することができたと思います。」

JADA 専務理事 浅川伸コメント

「ドーピング検査は、クリーンなアスリートを守り、クリーンな大会を担保するために必要なものです。アジアで初めて開催されるラグビーワールドカップをクリーンな大会にするため、ワールドラグビー、JADA、ドーピング検査員が 1 つのチームとして活動を行っています。JADA のドーピング検査員は豊富な知識と経験を持っており、ラグビーワールドカップをクリーンな大会とすることに貢献できるものと考えています。」



- 若い世代のアスリートや、観客、ラグビーファンを対象としたアンチ・ドーピングの普及・啓発活動の一環として、“KEEP RUGBY CLEAN (キープ・ラグビー・クリーン)”キャンペーンを 10/26-27 の横浜ファンゾーン (@臨港パーク) において実施しました。“KEEP RUGBY CLEAN”は、ワールドラグビーが展開するアンチ・ドーピングキャンペーン (<https://keeprugbyclean.worldrugby.org/>) です。今大会においても、10/5-6 に大会参加の選手やレフリーが「KEEP RUGBY CLEAN」「クリーンなラグビーを守ろう」と印刷された T シャツを着用し、SNS 等を介して世界中へクリーンなスポーツへのメッセージが発信されています。

横浜ファンゾーンでは、ワールドラグビーと JADA が連携してブースを設置し、1,000 名を超える参加者がクリーンなラグビーや、ラグビーの精神 (品位、情熱、結束、規律、尊重) を考え、自身の考えるラグビーの価値をポスターに記入していく活動を行いました。「KEEP RUGBY CLEAN の T シャツを着た選手の SNS を見て、ラグビーの価値を広げていくために、アンチ・ドーピングは皆が取り組むべき活動だと思った」「アスリートではない自分ができることは、クリーンなアスリートを応援したり、子どもたちにアンチ・ドーピングの大切さを伝えていくことだ」といったコメントが参加者から寄せられました。



ワールドラグビーと JADA は、ラグビーワールドカップ 2019 日本大会のレガシーの 1 つとして、今後もグローバルなアンチ・ドーピング・ムーブメントの推進に協働して貢献していきます。

#RWC2019 #KeepRugbyClean #playtrue2020 #iplaytrue #antidoping
#クリーンなラグビーを守ろう #アンチドーピング